



子どもの支援のために

ケース会議



を開いてみませんか。

短時間で、子どもの理解を深められます。

それが、ケース会議です!!



ケース会議のメリット

- 1 複数の先生方で考えることで、多様な見方、多様な考えから支援策が生まれる。
- 2 子どもの理解と支援策が共有できる。
- 3 チームで対応“一人で頑張らない”雰囲気づくりができる。

体験した先生方の話から

様々な先生の気づき、発想がいろいろあるので、どのようなアプローチができるのかを整理できました。

この考え方は、生徒指導の観点からも使えます。生徒指導部会でも使ってみようと思います。

子どもの一つの行動について深めて議論でき、情報を共有したり、支援策を考えたりして、ゴール(解決策)までたどり着けました。

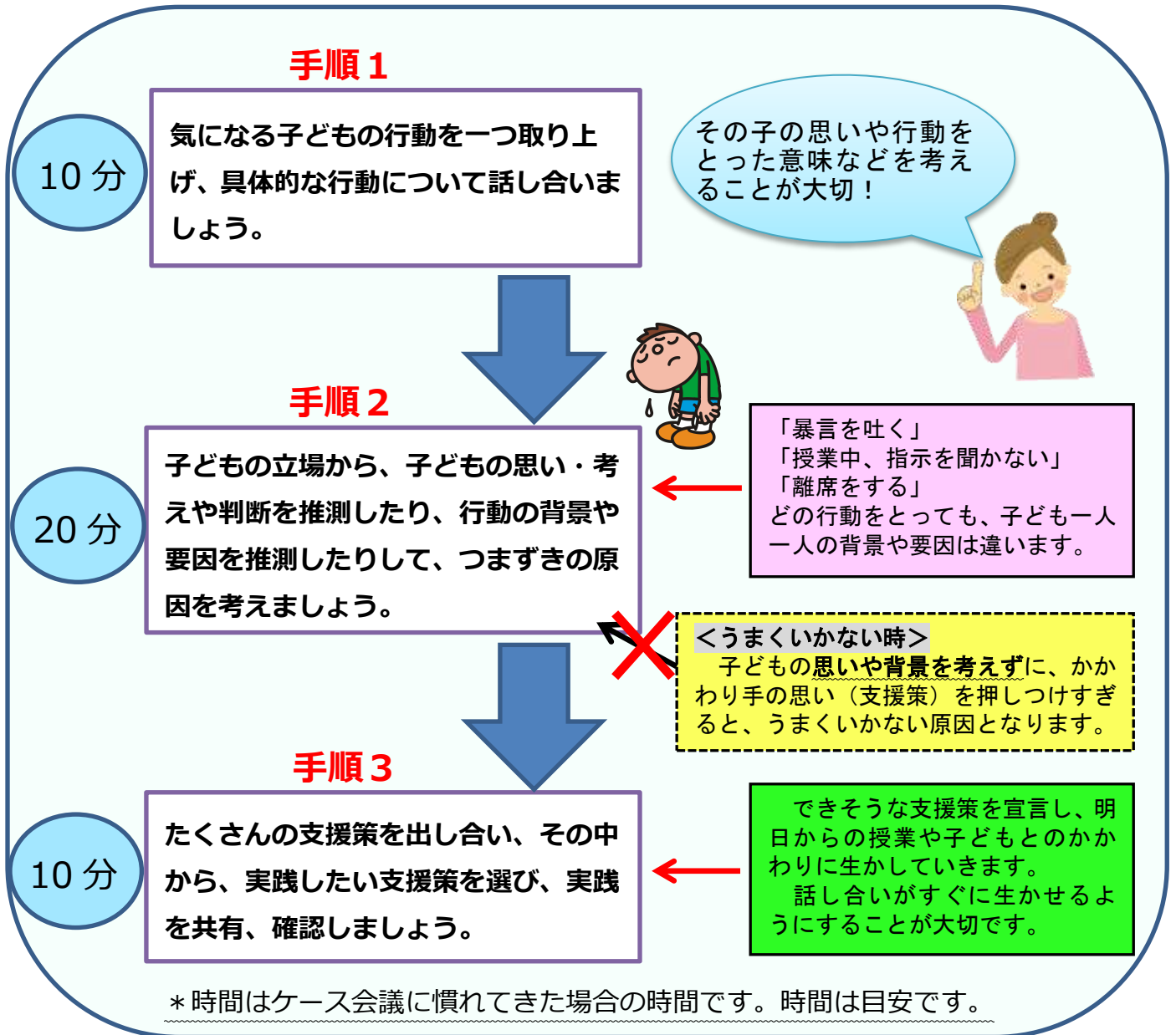
子どもにとって良いが、先生にとっても良い。自分が一人じゃない！と嬉しくなりました。





ケース会議の進め方

*進行役は、特別支援教育コーディネーター等、事例検討をする子どもの担任以外の先生が進めるとより効果的です。



メンバーの集め方

身近なメンバーでケース会議を行い、効果を実感できたら、少しずつメンバーを広めていくことも方法の一つです。



- 話し合える気軽なメンバー 3～4 人で。
(学年、教科担任、教務担当、養護教諭、研修グループ、特別支援教育コーディネーター等)
- 校内組織（特別支援委員会、生徒指導協議会等）を活用して。

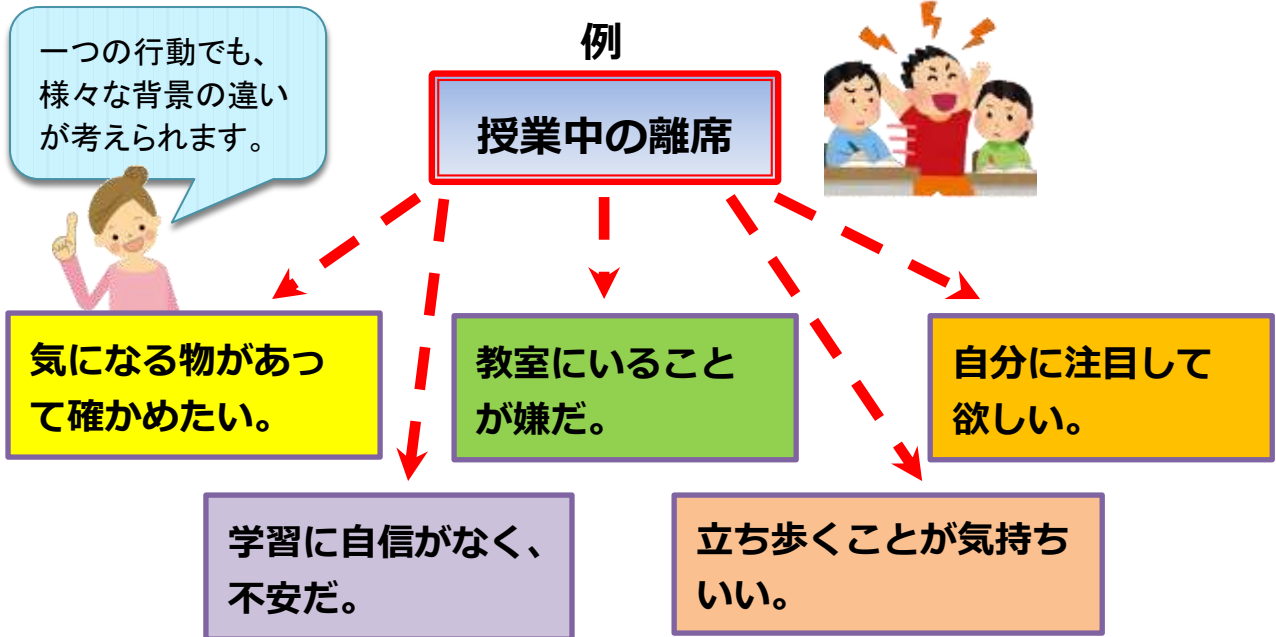


ケース会議を進めるポイント①

子どもの行動の要因と背景を探るための考え方

子どもにとって、意味のない行動はありません。

「子どもにとって、その行動にはどんな意味があるのか？」を考えてみましょう！



「なぜ？その行動をとるのか？」と思考を深めると、

「子どもがその行動を取った理由」が見えてきます。



理由が明確になると、どんな支援策があるのかが、焦点化されます。

ケース会議を進めるポイント②

話し合いのルール

- ① 取り上げたい行動（事実）を確認しておく。 ※1つに絞る！！
- ② 「ゴールは具体的な支援策を共有すること」を確認する。
- ③ 担任や担当のこれまでの取り組み、質問や考えた支援策に対して、批判的否定的な発言をしない。
- ③ 出された意見は全て取り上げる。
- ④ 良い悪いではなく、子どもに合っているかどうかの視点で話し合う。

話し合いは、雰囲気がとても大切です。発言や考えを否定する雰囲気があると、良い意見が出されにくくなります。組織力を生かし、多角的に子どもを見て、解決策を見いだしていきましょう。

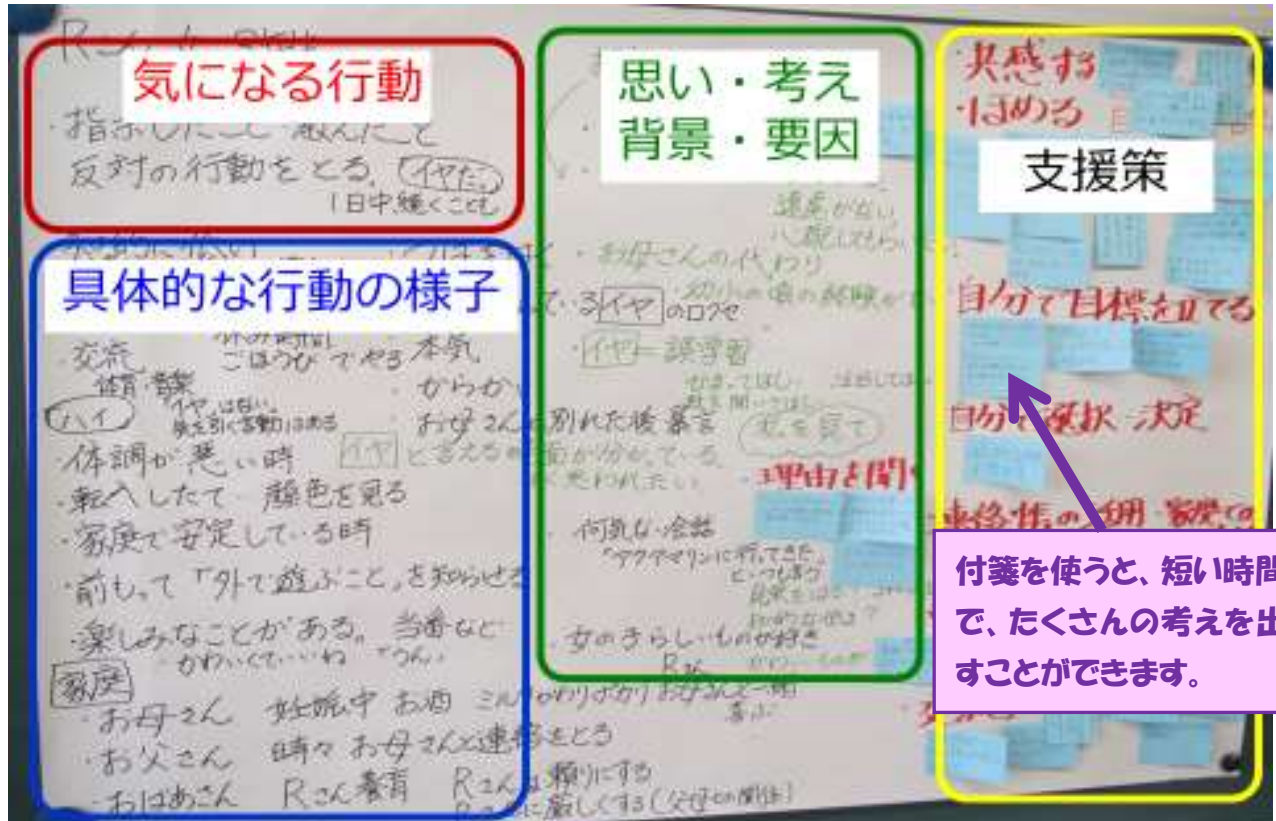




ケース会議を進めるポイント③

ホワイトボードや模造紙を使い視覚化・共有化

ケース会議の記録例



ホワイトボードや模造紙に書くことで、

- ・情報を共有して考えることができます。
- ・写真を撮れば記録として残すことができます。
- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画に記入することができます。



さあ、ケース会議で気軽に、

子どもの話をしてみましょう!!

*初めてのケース会議で、不安や質問がある先生は、お気軽に当センターにご相談ください。

*詳しい進め方は、福島県養護教育センターのホームページ「今日からできる！特別支援教育」をご覧ください。